◆検 査 室

室 長 中島晴伸

2020年度は9人体制のまま、1名を隔週4日出勤体制の運用とした。継続して検体検査と生理検査間でのローテーションを行い、全体でのカバーリング体制が更に充実した。それにより有給休暇等を取得しやすくなり、また病欠者発生時等のフォローも容易になった。

外来採血業務への参入は継続しており、基本週1日だが、外来繁忙時には可能な限りフォローに入っている。

出前・健康講座はコロナ禍のため、検査室からの講座は開催されなかった。

新人看護師を中心としたミニレクチャーは、例年の内容に加え「心電図検査時の注意点」を含む6つのテーマで開催した。

【検体検査】

外注費用を含め、検査材料等の大きな経費削減には繋がらなかったが、毎回期限切れが発生するＨＣＧの試薬を、小単位包装に（25個入りから5個入りへ変更、単価は上がるが期限切れによる破棄が減った）変更した。また同様に期限切れが発生する尿中薬物検査試薬を検討中である。

年度を跨ぐが（2021年4月1日から）、ＬＤＨとＡＬＰの試薬をＪＳＣＣ法からＩＦＣＣ法へ変更した。

数年来の念願であった、安全キャビネットが設置され、インフルエンザやＣＯＶＩＤ-19の検査を安全に実施出来るようになった。

ＣＯＶＩＤ-19の蔓延に対応し、院内における抗原検査、およびＬＡＭＰ法を開始した。また入院時のＬＡＭＰ法も開始し、検体採取も臨床検査技師が行っている。

2020年度も検査件数は、外来入院共に減少した。

【生理検査】

ここ数年来実施してきた超音波研修の成果により、心エコーは4名体制、腹部エコーは3名体制（現2名研修継続中）となった。さらに他の領域も充実した体制を構築していく必要がある。

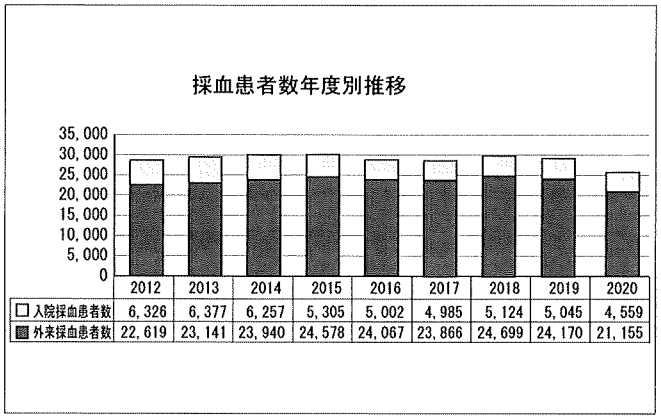
ＣＯＶＩＤ-19禍の対応として、加湿器の設置と、各検査区域へ換気扇の設置を行い、拭き上げ可能なベッドのシーツへ変更を行った。

2020年度の生理検査件数は、全体で200件ほど減少した。

【今後の展望】

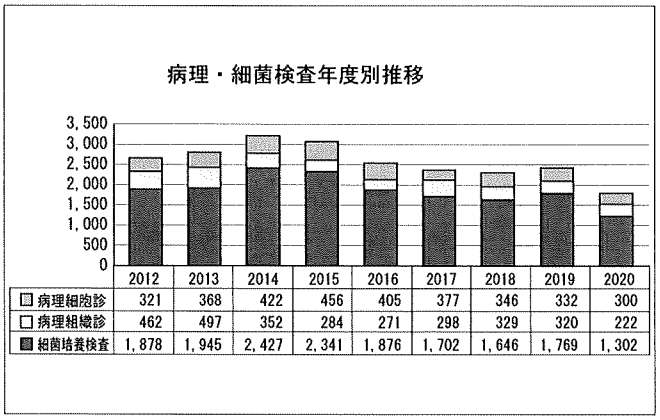
検査室全体のカバーリング体制のさらなる充実による、休みの取りやすい就業環境を整備していく。

実務のマンパワーは充実してきており、来期はもう１名「主任」に登用されることを期待する。今後他部署の連携などを含め、マネージメント力の充実を図る。



	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
□入院採血患者数	6,326	6,377	6,257	5,305	5,002	4,985	5,124	5,045	4,559
■外来採血患者数	22,619	23,141	23,940	24,578	24,067	23,866	24,699	24,170	21,155

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
▨腹部エコー	1,843	2,091	2,156	2,127	2,016	2,022	2,123	2,197	2,146
□心エコー	1,889	1,770	1,655	1,467	1,454	1,631	1,601	1,456	1,261
■心電図	4,570	4,549	4,672	4,589	3,881	3,856	4,028	4,346	4,300



	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
▨病理細胞診	321	368	422	456	405	377	346	332	300
□病理組織診	462	497	352	284	271	298	329	320	222
■細菌培養検査	1,878	1,945	2,427	2,341	1,876	1,702	1,646	1,769	1,302